●〈臨床研究〉

消化器内視鏡検査前のスクリーニングとしての HIV 抗体検査の意義

内原正勝 泉 並木 野口 修 朝比奈靖弘
板倉 潤 金澤信彦 濱野耕靖 三宅 祥三
堺 隆弘

武蔵野赤十字病院／消化器科

〔Key Words〕 HIV 抗体検査, 消化器内視鏡, 感染防止対策

はじめに

消化器内視鏡検査は診断だけでなく治療に関しても著しい進歩がみられ観血的な処置をすることが多くなってきているため、内視鏡検査による感染防止には十分な注意が必要である。内視鏡検査によって B 型肝炎や C 型肝炎ウイルス、あるいは、ヘリコバクターピロリなどの細菌感染がありうるとの報告がある¹⁾。適切な機器の消毒によりこのような感染は最少限にすることができると考えられる。最近ではわが国では HIV の陽性率が徐々に高くなっており、内視鏡検査に関連した HIV の伝播を未然に防止することが非常に大切である。当院では、1994 年より内視鏡施行前に HIV 抗体検査を含む感染症に関する検査を施行しており、今回、このようなスクリーニングの意義を明らかにするために以下の検討を行った。

対象と方法

1994 年以後、当院ではインフォームドコンセントを得たうえで内視鏡検査前に、原則として全例で HBs 抗原、HCV 抗体、梅毒血清反応に加えて HIV 抗体検査(EIA 法)を施行してきた。そこで、1994 年より 1998 年の間に消化器内視鏡検査が予定され、いまだ HIV 陽性であると診断されていない患者を対象に HIV の陽性率を検討した。さらに、同時期に当院で HIV 陽性と診断された患者を対象として HIV が陽性と診断された経緯についても検討を加えた。

結 果

1994 年より 1998 年の間に消化器内視鏡検査を施行された患者は 23,782 人であったが、EIA 法による HIV 抗体陽性者はこのうち 2 人(0.0084%)であり、ともに Western blot 法で HIV が陽性であることが確認された。このうち 1 例は、37 歳の男性で、血便、下痢を主訴に当院を受診、大腸内視鏡検査が予定されたが、検査前のスクリーニングで HIV が陽性であることが判明した。その後肺炎で他院に入院し、精査の結果、ア

Table 1 Clinical features of 10 cases diagnosed as HIV positive.

内視鏡検査前のスクリーニング	2例
手術前のスクリーニング	3例
出産前のスクリーニング	1例
健康診断	1例
肺炎	1例
肝膿瘍	1例
カンジダ症	1例
計	10例

メーバ赤痢と診断された。他の 1 例は 64 歳の男性で胃部不快感を主訴に当院を受診、上部消化管内視鏡検査が予定されたが、検査前のスクリーニングで HIV が陽性であることが判明した。内視鏡検査は予定どおり施行されたが、とくに病変は認められず、HIV の無症候性キャリアーとして現在、当院で抗ウイルス薬投与にて経過観察中である。1994 年以後当院ではこの 2 例のほかに 8 例が HIV 陽性と診断された。これら計 10 例の患者が HIV 陽性と診断された経緯について解析を行ったところ肺炎、肝膿瘍、カンジダ症などの症状をきっかけに HIV 陽性と診断されたのは 3 例のみであり、他の 7 例は内視鏡や、手術前などのスクリーニングで HIV 陽性と診断された (Table 1)。結局、今回の検討で、当院で診断された HIV 陽性者の 20% が消化器内視鏡検査前のスクリーニングをきっかけに HIV が陽性と診断されたことが明らかになった。

考 察

現在までのところ、内視鏡検査が原因で HIV が感染したことが証明された報告例はないが、不十分な消毒では HIV が感染する可能性があることが指摘されている²⁾。また、仮に内視鏡検査のような医療行為で HIV の感染があったとしても、これを医学的に証明するのは困難である可能性が強いと考えられる。したがって、HIV のわが国での陽性率が徐々に高くなってきていることを考慮すると、現在、わが国ではほぼルーチン化されている内視鏡検査前のスクリーニングとしての HBs 抗原、HCV 抗体、梅毒血清反応に加えて、HIV 抗体検査も可能なかぎり追加することが望ましいと考えられる。内視鏡検査の術前に HIV 抗体検査という新たな検査をルーチンで施行する場合にはまず、医療経済的な評価を行ってからにするべきであるという意見もある。しかしながら、医原性の HIV 感染はどんな理由があろうと絶対防止しなければならない訳であるし、HIV 抗体検査を事前に施行

することが、患者間や医療従事者への HIV 感染防止対策になりうることを考えると、ある程度の代価を払ってでも HIV 抗体検査はルーチンで施行するべきであると考えられる。しかしながら、内視鏡検査における感染予防対策の基本は、消化器内視鏡学会のガイドラインにしたがった一定の手順にもとづく、内視鏡や、関連した機器の洗浄、消毒であり^{3,4)}、とくに、感染症検査が未施行症例は患者間の感染症の伝播を防止するため内視鏡や関連した機器の消毒を、感染症を有する場合に準じて念入りに行うことが大切である。

結 語

当院の内視鏡検査前のスクリーニングで、23,782例中2例(0.0084%)の HIV 陽性者が発見された。HIV の陽性者はわが国では徐々に増加傾向にあり、HIV 抗体検査も内視鏡検査前のスクリーニングとしてより多くの施設でルーチン化することが望ましいと考えられた。最後に、御教示、御助言いただいた当院血液内科長田薫先生に深謝致します。

文 献

- 1) Spach DE, Silverstain FE, Stamm WE: Transmission of infection by gastrointestinal endoscopy and bronchoscopy. *Ann Intern Med* 118: 117-128, 1993.
- 2) Hanson PJ, Gor D, Clarke JR, et al: Contamination of endoscopes used in AIDS patients. *Lancet* 2: 86-88, 1989.
- 3) 大井田正人, 榎 信廣: 消化器内視鏡洗浄消毒法ガイドライン. 消化器内視鏡ガイドライン. 日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会編, 医学書院, p27-39, 1999.
- 4) 日本消化器内視鏡学会消毒委員会: 内視鏡の洗浄・消毒に関

するガイドライン. *Gastroenterol Endosc* 40: 2022-2034, 1998.

Clinical Significance of Screening of Serum HIV Antibody Prior to Gastrointestinal Endoscopy

Masakatsu Uchihara	Namiki Izumi
Osamu Noguchi	Yasuhiro Asahina
Jun Itakura	Nobuhiko Kanazawa
Kohsei Hamano	Shozo Miyake
Takahiro Sakai	

Prevalence of HIV infection in Japanese has gradually increased in recent years; therefore, physicians should give great attention to the prevention of transmission of infectious agents including HIV via endoscopy. Routine screening of serum HIV antibody as well as serum HBs antigen and HCV antibody, and serum test for syphilis has been performed prior to gastrointestinal endoscopy since 1994 in Musashino Red-Cross Hospital, and the calculated positive rate of HIV was revealed to be 0.0084 % (2 out of 23782 patients). Ten patients have been diagnosed as HIV positive in the same period; therefore, screening test before gastrointestinal endoscopy accounted for 2 out of 10 patients diagnosed as HIV positive in the hospital. One of these patients was diagnosed as amebic colitis thereafter. To prevent endoscopic transmission of infection including HIV, proper cleaning and disinfection procedure based on the guideline of the Japan Gastrointestinal Endoscopy Society is essential. However, routine screening including HIV antibody prior to endoscopy is recommended to prevent unexpected transmission of infectious agents including HIV.

Division of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red-Cross Hospital.